出前市長室提言記録簿（11月24日開設）

No.	提言者		提言内容	応対（市長等発言内容）
	男・女	年齢		
1	男	70	福祉会館周辺施設再編の取り組みについて、提言書を出して3年、福光福祉会館周辺まちづくり協議会は2年目になる。子ども達に周辺の様子の未来の絵を描いてもらう事業も継続している。 第一案が生涯学習スポーツ課から出たが、もう少し具体的な計画書を出して欲しい。まちづくり協議会としてはもう一年あるので、シンポジウムを開いて、市長に来ていただいて相談したい。	前に報告書をいただいたが、昨年末に公共施設の再編計画が始まり、統合と現状の維持をどう理由づけするか考えないといけない。文化会館も複合施設として必要だが、周辺施設の利用も同時に考えないといけない。 また、総合計画等に中・高生の意見を反映していきたいと思う。優先順位としては今は庁舎再編問題があるが、どこになろうが空く庁舎があり、その後の利用がそれぞれの地域づくりの議論になると思う。ざっくばらんな勉強会をしていただけるなら、私も参加したい。
2	男	70	福光駅前の福光中央会館5階ホールは沢山の市民が利用しているが、音響が悪く後ろの方が聞こえない。飲食を伴うイベントには最適の場所である。今ある施設を活用するということで、市の補助で音響設備を設置してもらえないか。多くの市民が喜ぶと思う。	福野のアミューホールも音響が悪いと聞いている。市民の方が使う公共的な施設に関しては、補助制度があるはずなので調べてみる。福光中央会館は良く使われているので、後ろの方も聞こえるようなシステムを入れるにはどうすれば良いか、JAとも相談して行きたい。 使いやすいホールはホールとして、これから老朽化する施設をどうしていくか、ということも相談させていただきたい。
3	男	71	統合庁舎は一番経費のかからない所で、という観点で考えていただきたい。その他の予算は高齢化社会、子供たちの育成に有効に使っていただきたい。 確かに福祉会館の利用状況は悪い。福光公民館の3分の1ほどの利用で、広さも、駐車場も、音響も使い勝手が悪い。これから使う中・高生の意見を聞くのは大事だと思う。将来に残るようなものを作って欲しい。良いものを作れば、金沢や他からも来てくれるようになると思う。	福光の室内グラウンドは金沢の若者の利用が多いと聞いている。これからは違う目的で使えるということも重要で検討すべきだと思う。ワークショップで、行政や若い人で中堅になってもらえる人も入ってもらい、みんなでいろんなアイデアを出して話合いを重ねて、まとめていくようにしたい。 町の中に子供たちの賑わいを作るとき、これからは、全部、行政で作るのではなく、民間と協力して、PPPやPFIの手法を活用して、金沢大学の先生も入ってもらって、作ってから失敗した、ということがないようにしていきたい。
4	女		福光福祉会館周辺施設再編整備に関する提言書は夢をもってまちづくりを考える、ということでまとめてあり、まちづくりを考える良い機会をもらった。まちづくり協議会、また、若い人に引き継いでもらう事が大切である。議論の輪を広げていきたいので市長も協力してほしい。中・高生の意見を取り入れるのは賛成だが、その親世代にも市のことに関心を持ってもらい、満足度を高める事が必要である。 公共施設再編で縮小しないといけないのは分かるが、市の職員の方々には夢をもった説明の仕方、市民の思いをくみ取る能力を高めてほしい。	18歳から選挙権が与えられたことで子供達が社会に関心を持ち、調べたこと、聞いたことを親に話し、家庭でまちづくりを話すきっかけになっている。以前、南相馬市で地域の集まりに参加する機会があったが、大人がクレームばかり言った後、参加していた中・高生の「これからは30年後のことを考えましょう」のひと言で、議論が前向きで明るい内容に変わった事があった。中・高生の意見で次の世代が動き始める。まちづくりをみんなで考える会をまずは中・高生を集めて行ないたいと思っている。
5	男	70	今月、地区社協で民生委員、町内会長、高齢福祉推進員で町内の実態調査をしたが、福光町内は空き家が非常に多い。空き家の利用も考えないといけないし、防火・防災の問題もあり、まちづくりとして真剣に考えなければいけないので、市もフォローをお願いしたい。	マップを作成してどんな人がいるかとか、空き家がどこにあるかを調査することは重要だ。福祉で言う地域包括ケア（子育て、生活困窮者、高齢者の独り暮らし等）にポイントを絞ると、まちづくりの問題点が見えてくるので、地域の皆さんとタイアップして事業を進めていく必要がある。小規模多機能の地区として事業を進めていきたいが、人口が減っているのに積み重ねで事業が多く、役職が多くあり過ぎ、地域づくりまで考えられなくなっている。事業の整理をして、地域のコミュニティを大事にして、繋がりを作っていく事をやっていきたい。どうやれば、誰がやればいいのかということを考えないといけない。

出前市長室提言記録簿（11月24日開設）

No.	提言者		提言内容	応対（市長等発言内容）
	男・女	年齢		
6	男	71	今、若い年代の働き盛りの人で町内の役員のなり手、長になる人がいない。子供達も少ないので、これからもっといなくなる。若者が定着するまちづくり、働く場所を作らないといけない。	働き場所としては呉西地区が日本の地方の中で一番有効求人倍率が高いが、職種が少ないので雇用の幅を広げることが大事だ。また金沢、富山に通勤可能なので、ここに住んだ方が得だという事を広めていきたい。三世代同居や転入、持ち家に対する補助金制度は色々あり、PRしている。若い人にはなんとかして帰って来てもらうように考えないといけない。友達同士で動いてもらうと参加しやすいかもしれない。
7	男	71	この間、大きな地震があり、先日も氷見市と合同の防災訓練があったが、富山県は地震の空白地帯ということで、防災意識が低い。高齢化が進む中、南砺市として防災意識の向上を図らないと、いざ災害が発生した時に大変なことになる。	災害は実際に体験しないとなかなか分からないと思うので、繰り返し防災訓練をしないといけない。「命のバトン」も今では冷蔵庫に入ってる人も少なくなってきている。まさか来ないと思っているかもしれないが、改めてしつこく啓発していかないといけない。火災の方は消防団が回ってくれているが、防災は何が出来るか考えたい。 また、防災無線はデジタル化によって音が聞きやすくなると思う。
8	男	64	まちづくりの観点からみると、住み易さとか、にぎわいは商業施設の集積がないといけない。砺波市は事業所が多いので、商業施設も多いと思われる。若者を呼んで人口を増やさないと事業所・商業施設も増えない。伝統文化も大事だが、産業対策、企業誘致を考えないといけない。起業家支援も大事だが、継続して事業を続けていくのは難しく、安定した雇用にはならない。違った観点から思い切ったことをしないといけない。	今は国も企業も新たな投資をしにくい時代で、砺波を中心とした商圏が大きいので、商業施設はどうしても砺波に集まる。東京にいなくてもインターネットでのやりとりで仕事が出来るので、フリーランスで自宅で仕事をするような人は、南砺市に来ると安い家賃で生活が出来る。企業を誘致しての雇用、フリーランスの人達の誘致、などPRしながら人を集めていく。いろんな人が集まれるようないい環境を作って、夢を持てるような仕事が出来るようにしたい。空き家、空き店舗に起業した人が格安で入れるような仕組みもスタートしているが、よりよい優遇措置を増やしていきたい。
9	男		まちづくりに中・高生をという話があるが、市長が小中高生との対話を学校でして、行政に関心をもってもらえればいいと思う。教育行政は大事だと思う。いじめ問題やひとり親家庭の増加に対応するためにも、女性や青少年対象の語る会、出前市長室をやってほしい。文化会館も大切だが駐車場等、周辺施設の整備もお願いしたい。	年に一度は全部の小中学校を回りたいと思っている。いくつかの中学校で話をさせてもらったが、これからどんどん増やしていきたい。いろんな年代の人に集まっていただけるような対話集会を企画していこうと思っている。市職員が学校へ行って話をしているし、先生方にも市の課題を理解してもらうようにしたい。母子家庭・父子家庭も増えており、昔とは違ってきた。いじめには敏感に対応し、見て見ぬふりしないようにと学校にお願いしている。教育の場というのは重要なのでしっかり取り組んでいきたい。
10	男	75	整備後の会館を福光の文化を発信する場所として位置づけて欲しい。福野、井波、城端は発信する場所があるので、福光も生まれ育った地区で発信していくことが重要だと思う。コンパクトでいいので作って欲しい。春祭の神輿担ぎに集まる人材を活かすなど、基礎的な文化のベースを育てていって欲しい。その基地として、文化会館を位置付けていただければと思う。	文化会館を新たに整備する目的のひとつは、文化の拠点にすることだが、他の目的をどう組み入れていくか、も考えていくのが大事だと思う。後継者の問題だが、祭りは特別で、郷土を愛しているからこそ祭りに来た人を、いかに定住に繋げていくかは、まちづくりとして考えていかなければならない。今、祭りの担い手はどの地域も不足していて、地元の人だけでは成り立たなくなっている。祭りを守り、文化を継承し、どう繋いでいくか考えることが大切である。文化と歴史を理解し、それをベースに世界に広がるネットワークの下に何を入れるかが大事であると思う。

出前市長室提言記録簿（11月24日開設）

No.	提言者		提言内容	応対（市長等発言内容）
	男・女	年齢		
11	男	67	以前、雷が落ちて大変だったので、今度、福祉会館を整備するときはしっかりと避雷針をつけてほしい。 年配の店主の間で新町商店会を解散する話が出たことがあったが、若い人達は解散せずにやっていきたい、という話になった。だから、普段出て来ない若い人に、ぜひ話のなかに入ってほしい。	南砺市の商工会青年部は全国でも活気があるが、商店会に行くとバラバラになってるように思う。年配の方々は、選挙も会合もまじめに参加され、意見をいただいて、それで行政が決まっていくのはわかるが、若い人の意見をどう吸い上げていくかが大事である。若い人だけがいいのではなく、皆さんと一緒に考えたり、託したり、議論する関係を作っていくことが大事である。地域で若い人に移住、定住してもらう為にそれぞれの地域で考えてもらうことも大切だ。